

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター歩路		公表日		令和8年2月18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・選択遊び時に子ども達が怪我をしないよう職員の配置や玩具の設定等を工夫し、1部屋に10人以上いる際は、部屋を分けて机上活動やごっこ遊びができる部屋と身体を動かして遊べる部屋に分けている。	・利用定員数に対して、十分なスペースを確認しています。引き続き、実態や活動内容に応じた活動スペースの確保を行います。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員が必要な際には職員間で声掛けし、臨機応変に対応しています。	・配置基準を満たし、運営を行っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・身辺整理をする空間と遊びの空間をわけるなど構造化されている。身辺整理の場面が利用者の多い日など持ち物が散らばるなどしてしまいが、定期的によりより環境設定について検討を重ねている。 ・全てのクラスで同じスケジュールカードを使用しているため、子ども達が混乱せず過ごしている。子どもの実態に合わせて、必要な視覚支援の提示ができるよう努めたい。 ・視覚支援や写真が多く使われ、分かりやすいと思います。	・今後もお子さまの実態や状況に応じ、療育室を仕切ったり、視覚支援を取り入れたりしながら丁寧な支援に努めます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・ゴミ箱のゴミを捨て忘れていたことがある。 ・活動にあわせた選択遊びの設定がされている。 ・毎日清掃、消毒を行っている。 ・こどもたちの人数に合わせて環境設定を職員同士で話し合うことができているように感じます。 ・部屋の隅や棚の上の整理整頓ができていないことがあるため意識したい。	・整理整頓に努め、清潔な空間作りを行います。また、清掃が行き届いているかチームで振り返る機会を設けます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・チーム会議やミーティング等で改善点等を話し合っています。 ・人事考課にて自分の目標を設定するため、意識して取り組みやすい。 ・新人職員とは個別で月の目標を決め、実践している。	・年度当初に全職員、各自の目標を設定し、上司同席のもと定期的な振り返りを行い、支援の質の向上に努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・本アンケートを通して把握した内容については、事業所内でも情報共有します。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○				・本アンケートを通して外部や保護者からの意見につきましては、毎年チーム会議やミーティングの場を活用して、現場職員へ共有しています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部への研修参加も積極的に行っている。 ・職員会議等でも支援方法や業務に関して等、さまざまな研修を行っている。 ・専門職による研修が実施され、知識を深めることができる。	・今後も法人内外の研修に参加し、専門的知識の向上に努めます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを作成し、ホームページで公表しています。		

12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・誕生月に必ず保護者に聞き取り面談を行った上で計画書を作成している。 ・聞き取り面談の際に保護者から園や併行通園先の様子を聞き取り、強みや課題を支援計画に取り入れられるようにしている。	
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・児童発達支援管理責任者、チーフ、ケース担当者で意見交換を行い、個別支援計画を作成している。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			・毎月クラス会を実施し、個別支援計画に沿った支援ができていくか振り返る機会を設けています。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・公認心理師や言語聴覚士等による発達検査を行い、アセスメントとして、活用している。	・必要に応じてセラピストによる発達検査（新版K式発達検査2022、絵画語彙検査等）を実施し、日々の行動観察を含めアセスメントしています。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・個別支援計画作成時には、でこどもの様子や課題などを踏まえて話し合い、個別支援計画書に反映している。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・年間指導計画書を基に毎月指導案打ち合わせを行い指導案に反映させている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・毎月の指導案打ち合わせで、各クラスの様子を伝え合い、こどもの実態に合わせて活動内容を検討している。	・引き続き、季節の活動も取り入れながら、こども達の実態に応じた楽しい活動の提供に努めます。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・集団活動を主とするが、こどもの実態に応じて、集団活動、個別活動を提供している。	・児童発達支援計画書に加え、専門的支援実施計画書を作成しています。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・当日の流れや利用者の支援について共有している。 ・放デイの職員やセラピストが支援に入ってくれた際、支援内容等の情報が十分伝えられていないことがある。 ・支援前に打ち合わせが難しいこともあるが、支援中にも1日の流れや支援の方法について話し合いながら活動を進めている。	・引き続き、療育開始前までに指導案の内容を確認し、職員間で引き継ぎ・共通理解を行った上で、支援を提供できるように努めます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・療育終了後のミーティング時に共有している。また、ミーティング時に気になったことを話題に出し、必要に応じて、改善策を検討している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日誌に記録を残しています。	・引き続き、日々の様子や支援の経過について、記録を行います。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・作成会議で、モニタリングを実施し、支援計画の見直しを行っている。 ・相談支援との連携、情報共有も必要に応じて行っている。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者や担任が中心となり、参加しています。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・主に課長、チーフがやりとりを行い、職員間で情報共有を行っている。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保育所等訪問支援や日々の引き継ぎの中でこどもの様子について、情報共有を行っている。 ・併行通園先と情報共有連絡会の実施し、相互理解に繋げている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			・引き続き、就学時の移行の際には、夢すこやかファイルの作成を行い、小学校への引き継ぎを行います。
	28	(28~30は、センターのみ回答)	○		・他事業所の公開療育に参加する等して、意見交換等を行っている。	・鹿児島市の児童発達支援センター有志の会を主催し、各センターの取り組みや課題を共有し、質の向上に繋げています。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・法人内外の研修に参加している。また、今年度は外部講師を招いた研修に参加した。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			・こども部会に所属し、会議等へ参加しています。
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・併行通園を行っているこどもは障害のないこどもと活動を行う機会はある。また、園外療育等で公園等に行った際に他児と触れ合う等の機会もあり、挨拶を交わす等の姿も見られた。	・引き続き、園外療育等の機会や地域の中でお子さまが活動する機会の確保を検討し、支援を行います。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・個別相談を実施する中で、こどもの状況を伝え、こどもの課題やストレングス等、共通認識を図っている。 ・土曜療育のや親子療育の際に保護者とやりとりする機会を設けている。	・今後も療育参観や個別相談、親子療育の機会を通して、お子さまの発達の状況や強み・課題について共通理解できるよう丁寧なサポートに努めます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・定期的に保護者向けペアレント・プログラムを実施し、保護者へ案内している。	・今年度も保護者向けペアレント・プログラムの実施や保護者会を通して学びや保護者同士のつながりを作る機会に繋げています。引き続き、ご家族が安心して子育てや生活ができるよう、サポートを行ってまいります。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に、契約書に基づき説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			・お子さまの意向についても丁寧に確認した上で、ご家族の意向も含め個別支援計画の作成に努めます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・作成後には必ず、対面または電話にて内容の説明をしています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて、保護者に面談や電話連絡等を行い相談等を行っている。またその後の様子等も気に掛け、定期的に声を掛ける等のサポートに努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			・保護者会ときょうだい児支援会を実施し、保護者やきょうだい児が交流する機会を設けています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・課長・チーフに相談し、現場の状況も踏まえ、適切に対応できるように取り組んでいる。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・おたよりやホームページ、SNS (Instagram) を通じて保護者に伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・契約時に、個人情報の扱いについて説明し同意書にサインをもらっている。	・引き続き、個人情報の取り扱いには、十分留意し対応します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・こどもの実態や場面に応じて視覚的なツールを使用している。保護者に関しては、保護者の様子や要望に合わせてメモで視覚的に伝える等取り組んでいる。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・秋祭りを実施し、地域の方に多く来場してもらっている。	・法人では、秋まつりやきらきらマルシェを実施し地域の方が楽しめるイベントを実施しています。	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・嘔吐処理の方法について、看護師より実際の場면을想定して実践する研修の機会を設けている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・年間計画に沿って毎月1回避難訓練を実施している。	・毎月1回、さまざまな災害を予想して避難訓練を実施しています。また、地域生活支援センターあさひが丘全体の取り組みとして、防犯訓練も実施しています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・アセスメントシート等を使用し保護者に聞き取りを行い、健康面についても確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			・アレルギーのあるお子さまがいる場合には、医師の指示書を提出いただき、適切に対応しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットを作成し事案を法人内で共有している。 ・毎月リスクマネジメント委員会がヒヤリハットを集計し、法人内で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・職員会議の場で虐待防止に関して研修を行う機会を設けている。	・毎年、職員会議にて虐待防止に関する研修を実施しています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			・現在、やむを得ず身体拘束を行うお子さまはいません。さまざまな支援の工夫をさせていただいた上でも、どうしても身体拘束を行わなければならない状況がある際には、保護者へ説明し、同意書の承諾を得たうえで対応させていただく流れとなっております。	